

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

ハークスレイ

7561 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 11 月 14 日 (金)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

2026 年 3 月期第 2 四半期は、中間期での最高売上高・営業利益・経常利益を更新（過去 5 年間）

ハークスレイ <7561> は、「中食」「店舗アセット & ソリューション」「物流・食品加工」の 3 事業を柱に、“食”の事業領域で多角的な M&A を実行し成長する企業である。

1. 2026 年 3 月期第 2 四半期の業績概要

2026 年 3 月期第 2 四半期は、売上高が前年同期比 20.9% 増の 25,525 百万円、EBITDA が同 19.8% 増の 2,088 百万円、営業利益が同 1.0% 増の 1,038 百万円、経常利益が同 4.1% 増の 1,115 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が同 15.8% 減の 520 百万円と、増収及び営業・経常増益となった。売上高、営業利益、経常利益いずれも過去 5 年（2022 年 3 月期以降）の中間期において最高値となった。

売上高に関しては、「物流・食品加工事業」で 2024 年 12 月に連結子会社となった(株)ホソヤコーポレーションの押し上げ効果（約 36 億円）に加え定番商品や OEM 商品が好調に推移したほか、「中食事業」でほかほか亭の新メニューが好調に推移したこと等が増収に貢献した。また、「店舗アセット & ソリューション事業」では、稼働店舗数の増加によりストック収入が増えたのに加え、第 2 四半期に不動産（TRN 立川）1 棟を売却し、前期に発生したテナント入れ替え収入（約 3 億円）が剥落した影響を補って増収となった。「中食事業」のセグメント売上高は同 3.5% 増の 8,640 百万円、「店舗アセット & ソリューション事業」のセグメント売上高は同 4.7% 増の 6,378 百万円、「物流・食品加工事業」のセグメント売上高は同 49.9% 増の 11,764 百万円となった。

営業利益に関しては、販管費がのれん償却費の増加などにより前年同期比 17.8% 増の 6,923 百万円と増えたものの、増収効果や原価低減努力などにより売上総利益が同 15.3% 増の 7,961 百万円と堅調に増加したことで増益となった。セグメント別では、お米を始めとした原価低減により「中食事業」の増益幅（前年同期比 273 百万円増）が大きかった。「物流・食品加工事業」ではホソヤコーポレーション取得によるのれん償却費（約 2 億円）増加等により減益（同 202 百万円減）となった。

戦略セグメントである「物流・食品加工事業」が全社の成長をけん引し、黒字化基調に戻った「中食事業」を含め 3 事業セグメントすべてが自立し稼ぐ力が着実に向上している。

2. 2026 年 3 月期の業績見通し

2026 年 3 月期は、売上高は前期比 16.7% 増の 52,700 百万円、営業利益が同 1.6% 減の 1,900 百万円、経常利益が同 23.2% 減の 1,600 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 17.0% 減の 1,000 百万円と、増収減益の予想である（期初予想据え置き）。進行期も「物流・食品加工事業」は成長をけん引すると予想される。連結子会社(株)ホソヤコーポレーションの年間を通した売上及び利益の連結がプラス要因となる一方で、のれん償却、菓子原料のコスト上昇なども見込む。「店舗アセット & ソリューション事業」では、不動産管理テナント数を増加させるなどストック売上に着実に行う。なお、不動産売却（物件販売）の売上高及び利益は見込まない期初予想となっている。「中食事業」は、2025 年 3 月期の下半期以降は黒字転換しており、カスタマイズ弁当のエリア拡大や万博でも注目されたワンハンド BENTO など好材料もあり好調を維持する見込みである。

成長戦略：売上・利益の成長性の高さに注目

同社は、過去 5 年間（2022 年 3 月期中間期～2026 年 3 月期中間期）の年平均成長率が売上高で 16.3%、営業利益で 34.1%、EBITDA で 38.0% と高い成長を持続してきた。日本経済新聞（2025 年 9 月 4 日）によると、成長力の高い中小型株として 2025 年 4～6 月期と 3 年前の同じ期間の売上高の増収率で順位 11 位にランクインした。売上高の増収のドライバーとしては、M&A の効果が大きく、稲葉ピーナツ（2022 年 11 月）、ホソヤコーポレーション（2024 年 12 月）の連結子会社化が大きく寄与した。また、内部成長においても、「物流・食品加工事業」の物流部門・カミッサリー部門が、流通業の人手不足問題を背景に OEM 受託を増やしてきた。利益面に関しては、「店舗アセット & ソリューション事業」の利益貢献と安定成長が顕著である。稼働店舗数（店舗リース、不動産管理）は 2023 年 3 月末の 926 店舗から 1,021 店（2025 年 9 月末）と堅調に増加しており、ストック型の利益成長を実現している。また、所有不動産の稼働建物棟数は 17 棟となっており、適切なタイミングで売却することでフロー型の利益が得られている。また、「中食事業」及び「物流・食品加工事業」では主に外部環境の影響により収益力が低下した時期もあったが、大胆な経営改革・改善により収益力を早期に回復させており、その手腕は高く評価できる。

株主還元策：「前年を下回らない増配」が基本方針。2026 年 3 月期は 2 円増の 28 円予想（中間 14 円確定済、期末 14 円予想）

同社は、安定的な配当の継続を基本方針とし、将来に向けた成長投資に利益を配分するとともに、株主への利益還元重視の姿勢をより明確にするため、1 株当たり当期純利益の伸長に合わせて「前年を下回らない増配を目指す」としている。中期経営目標では最終年度の 2028 年 3 月期に年間配当 35.0 円とする目標を掲げており、毎年 2.0 円から 3.0 円前後の増配ペースが期待できる。自己株式の取得については、資本水準や株式市場の環境に加え、ROE や 1 株当たり当期純利益が伸長する効果を総合的に勘案し、機動的に実施するとしている。2026 年 3 月期は、年間配当 28.0 円（同 2.0 円増配、中間期 14 円確定済、期末 14 円）、配当性向 51.8% を予想する（期初予想据え置き）。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp